

キリストの聖体

第一朗読 創世記 14・18-20

第二朗読 一コリント 11・23-26

福音書 ルカ 9・11b-17

2025.6.22 9:30 ミサ

カトリック高円寺教会

イエズス会 アン助祭

共同体の皆さん、今日は、わたしたちがともにキリストの聖体の主日を祝う特別な日です。聖体の秘跡は、主イエス・キリストがわたしたち一人ひとりに与えてくださった最も完全な命の源であり、愛のしるしです。聖体を通して、主イエスご自身がご自分のいのちをわたしたちに分け与えてくださいます。たとえその姿が目に見えなくても、わたしたちは聖体において主キリストに触れ、主を仰ぎ見ることができます。主は静かに、しかし確かに、わたしたちのただ中に生きておられます。この聖なる秘跡を通して、わたしたちは神のいのちに与り、その自己奉獻的な愛のうちに招かれています。そしてこの愛の体験を通して、他者を愛し、仕えていく力をいただくのです。

今日のルカ福音書では、主イエスが五つのパンと二匹の魚を増やし、群衆を養われた奇跡が語られています。この出来事は、弟子たちが宣教の旅から戻った直後のことでした。イエスは疲れた弟子たちを休ませようと静かな場所へ導かれましたが、多くの人々がイエスを求めて集まってきました。そのため、イエスも弟子たちも休むことができませんでした。しかし、イエスは疲れを理由に群衆を退けたり、不満を口にされたりすることはありませんでした。むしろ、温かい心で彼らを迎え、神の国について語り、多くの病を癒されました。そこに、神の深い愛とあわれみがはっきりと表れています。

では、弟子たちはどうだったのでしょうか。日が暮れてきたこともあり、弟子たちはイエスに願います。「群衆を解散させてください。近くの村に行って宿を取り、食べ物を手に入れさせましょう」と。けれど、イエスは思いがけない言葉を弟子たちに告げます。「あなたがたが彼らに食べさせなさい」と。-自分たちの手で。誰かに任せるのではなく。

皆さん、もしわたしたちがその場にいたら、きっと弟子たちと同じように思ったことでしょう。「先生、それは無理です！ パンが五つと魚が二匹しかないんですよ」と。自分たちの力では到底できないと感じたはずです。

しかし、わたしは思います。イエスは弟子たちの力を試されたのではありません。彼らのことをよく知っておられました。むしろ、イエスは「どのようにして人々を養うのか」を弟子たちが自ら体験する機会を与えられたのです。旧約の時代、神は荒れ野でイスラエルの民にマナとウズラを与え、水を湧き出させ

て養われました（出エジプト 16-17 章参照）。イエスは今、その神の働きを引き継ぎ、新しい方法で人々を養おうとしておられます。「あなたがたが彼らに食べさせなさい」。この言葉は、弟子たちがイエスの働きに加わりともに仕える者として招かれていることを示しています。

イエスは弟子たちが差し出した五つのパンと二匹の魚を受け取り、天を仰いで感謝の祈りを捧げ、それを裂いて弟子たちに渡されました。弟子たちはそれを群衆に配っていききました。まさにその行いの中で、彼らは「あなたがたが彼らに食べさせなさい」というイエスの使命を実現していったのです。

キリストの聖体の祭日に、パンを増やされたこの福音を味わうとき、わたしたちは改めて思い起こしたいのです。神は一度限りではなく、今もこれからも、わたしたちを養い続けてくださいます。それもパンや魚ではなく、ご自身の体と血によって。イエスは自らの命を与え尽くすことによって、わたしたちに永遠のいのちを与えてくださったのです。

だからこそ、わたしたちは恐れることなく神が備えてくださった食卓に与りましょう。そこでわたしたちは神によって養われ、満たされるのです。そして聖体において、主ご自身と出会うことができます。その出会いを通して、わたしたちは人生の旅路を歩む力を与えられます。孤独なときも、暗闇の中にいるときも、主はそばにいてくださり、わたしたちの友となって人生の意味を新たに示してください。キリストの現存のうちに、わたしたちは変えられています。これこそが聖体の偉大な恵みであり、尽きることのない慰めなのです。

さらに、聖体の秘跡はわたしたちが他の人々のために仕えるようにと、招いてもいます。「あなたがたが彼らに食べさせなさい」。このイエスの言葉は、今もわたしたちの心に響いています。たとえわたしたちにできることが小さく、限られていたとしても、それをイエスに委ねるとき、それは豊かな実を結ぶでしょう。

そして今日は、わたしたちの教会共同体にとっても特別な日です。この中から二人の子どもたちが初めて聖体を受けます。今日あなたたちは二人とも、初めて自分の手でイエスに触れ、心にお迎えします。すごいことですね！ これからもイエスはいつもあなたたちの中にいて、ともに歩んでくださいます。わたしたちみんな、あなたたちがこれからもっとイエスを愛し、イエスと深い友だちとなることができるように祈っています。

共同体の皆さん、このキリストの聖体の祭日のミサの中で、まずは父なる神に感謝を捧げましょう。ご自分の子、主イエス・キリストをわたしたちに与えてくださったからです。主はわたしたちの糧となるために、御自分の体と血を

お与えくださいました。これこそが神の限りない愛とあわれみのしるしであり、何よりも大きな恵みです。

どうか、わたしたちが日々の生活の中でキリストの聖体と生き生きと出会い、その模範に倣いながら、兄弟姉妹に仕える者となることができますように。アーメン。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>